

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語 I Business English		( NKT13D )
講義名 (コード)	ビジネス英語 I B		( NKT13DB )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	DavidA. Robbins	時間数	30
成績評価教員	DavidA. Robbins	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	For students to learn how to communicate in a business setting.
全体の内容と概要	Using the text as a work book, listening to lectures about business, and discussion times to further understanding.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Go over syllabus, discover English ability. First meeting communication	Orientation and introduction. English for Socialization: Chapter 4, Part 1
2	Learning to talk about personal lifestyle	Ability to talk about personal life: English for Socialization: Chapter 4, Part 5
3	Learn how to make a phone call	Learning English for the telephone: English for Socialization: Chapter 1, Part 1
4	Learn to organize your topics to discuss	Topic organization: English for Socialization: Chapter 1, Part 6
5	Learn to put together a good business letter	Writing for Business, : English for Socialization: Chapter 6, Part 1
6	Learning about write in business	Correspondence phrases for different situations: English for Socialization: Chapter 6, Part 4
7	Learning correct phrases in different situations	Writing Model Letters: English for Socialization: Chapter 6, Part 5
8	Learning good meeting habits	What makes a good meeting: English for Socialization: Chapter 3, Part 1
9	Using business meeting terms correctly	Meetings and key terms that are used: English for Socialization: Chapter 3, Part 2
10	Learning proper phrases in a discussion in a meeting	Opinions in meetings: English for Socialization: Chapter 3, Part 4
11	Understanding a good presentation	Steps for giving a good presentation: English for Socialization: Chapter 2, Part 1
12	Preparing a presentation for your listeners	Organizing a presentaton: English for Socialization: Chapter 2, Part 2
13	Understanding a successful negotiation	Negotiations: English for Socialization: Chapter 5, Part 1 and Test Review
14		Test
15		Feedback

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Communicating in Business English, Compass Publishing
参考文献・資料等	N/A
備考	N/A

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語 I		( NKT13D )
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅢA		( NKT22IA )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To better understand business language and concepts.
全体の内容と概要	Textbook work, group and individual projects.
授業時間外の学修	Research and composition for projects and writing assignments.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Can discuss documents and correspondence	Textbook Unit 5. Roleplay conversations about documents, correspondences, deadlines, and responsibilities.
2	Can use past simple language.	Textbook Unit 5. Use past simple language to discuss current and recent activities.
3	Can solve problems and communicate appologies.	Textbook Unit 5. Roleplay discussions of problems, solutions, and appologies.
4	Can discuss social media and networking.	Textbook Unit 6. Class discussion about the relationship between social media and business in today's world.
5	Can describe past events.	Textbook Unit 6. Writing descriptions of past activities and experiences.
6	Can handle small talk and conversations.	Textbook Unit 6. Large group conversation activity.
7	Can discuss departments and responsibilities.	Textbook Unit 7. Group project, company structure and organization.
8	Can describe postion of place and movement.	Textbook Unit 7. Giving directions in conversation and email.
9	Can leave phone messages.	Textbook Unit 7. Practice leaving phone messages.
10	Can discuss employment.	Textbook Unit 8. Couple discussions about future employment plans.
11	Can communicate time.	Textbook Unit 8. Practice communicating and keeping schedules.
12	Can arrange meetings and events.	Textbook Unit 8. Group meeting project.
13	Exam prep.	Final exam preparation and review.
14	Final exam.	Final exam.
15	Exam feedback.	Final exam feedback and Q&A.

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	Textbook, project materials.
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅱ		( NKT13E )
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅣC		( NKT22JC )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキング、ライティングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りをペアで練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方をペアで練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用・食事の買い出し等の仕方をペアで練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】 商談を行えるようになる	商談の仕方をペアで練習する。
6	【打ち合わせ】 お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方をペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	ビジネスメールへの応答ができるようになる	ビジネスメールの書き方を学ぶ。
10	Eメールの作成と返信ができるようになる	ビジネスメールの書き方を学ぶ。
11	同僚へのもてなしができるようになる	同僚のもてなし方をペアで練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Business as Usual
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス翻訳Ⅱ		( NKT23F )
講義名 (コード)	ビジネス翻訳ⅡA		( NKT23FA )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスで使われるメール・インフォメーション等を正確に理解し翻訳できるようにする。簡単なメールを英語で書けるようにする。
全体の内容と概要	TOEICのパート6・7の問題に取り組みながら、本文を日本語に書き換えてみる。英語でメールを書くために必要な語彙、形式を紹介する
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	従業員に宛てたお知らせの文章・送り状を理解できる	お知らせの文を翻訳する。Invoiceの見方・書き方を学ぶ
2	ホテルのウェブページ・レビューが理解できる	レビューのサマリーを日本語で書いてみる
3	電話のメッセージの読み方・書き方を理解できる	メッセージの書き方を学び、実際にメモをとってみる
4	カメラの批評のweb ページを理解できる	それぞれのカメラの評価をまとめて書いてみる
5	割引広告・メールサーバー停止のお知らせを翻訳できる	日本語に翻訳してみる
6	meetingのアジェンダの読み方。作り方を理解できる	meetingのagendaを作り、staffにそれを知らせるメールを作成する
7	従業員に向けたstrategic planのe-mailを翻訳できる	e-mailを翻訳する。
8	車のディーラーからのお知らせとアンケートを理解できる	お知らせの書き方、アンケートの作り方を学ぶ
9	人事部からの職位に関するレターを翻訳できる	日本語に翻訳する
10	ツアーのitineraryを英文で書ける	簡単なツアー日程を英語で書いてみる
11	会議の議事録を翻訳できる	会議の議事録を翻訳してみる
12	オフィススペースのレンタル広告を理解し返信できる	オフィスのレンタル広告をみてそれに対する返信を書いてみる
13	まとめ	復習・テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	公式TOEIC Listening & Reading
参考文献・資料等	ビジネスで1番よく使う英語E メール
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス翻訳Ⅱ		( NKT23F )
講義名 (コード)	ビジネス翻訳ⅡB		( NKT23FB )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスメールなどの翻訳ができるようになる。
全体の内容と概要	相手や場面に応じた言葉 (フォーマル、セミフォーマル、カジュアル) の使い分けができるように語彙力と表現力を身につける。
授業時間外の学修	Unitごと習うビジネス特有の表現・語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ビジネスフレーズを瞬間英訳できるようになる	ビジネスフレーズを学び瞬間英訳トレーニングを行う。
2	「品物がとどかない」クレームメールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
3	「品物が不足している」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
4	「品物が破損・不良品」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
5	「出荷の遅れを謝罪する」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
6	「品違いを謝罪する」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
7	【Unit9】招待できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
8	【Unit10】予約できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
9	【Unit11】キャンセルと予定変更ができるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
10	【Unit12】場所を説明できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
11	日常業務に関するメールのやり取りができるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Go Global
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	なし

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化理解Ⅱ		( NKT13K )
講義名 (コード)	異文化理解ⅡD		( NKT13KD )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく。
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し、考察する。	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
5	様々な国での催事を知ることでその国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることでその国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる。(家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など) 各自興味がある国について調べてまとめる。
8	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
9	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト(衣食住の発表)
14	まとめと解説	期末テスト(衣食住の発表)
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	英語資格対策Ⅱ		( NKT13G )
講義名 (コード)	英語資格対策ⅡA		( NKT13GA )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	英検2級・準1級に必要な文法・語彙・熟語を習得し、それぞれの級の練習問題に取り組む。
授業時間外の学修	受験する級の語彙を増やし、問題集に取り組む
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	現在完了・過去完了を理解できる	現在完了形と過去完了形の違いを学習する/ 長文読解
2	受動態を理解できる	現在・過去・未来・助動詞がはいた受動態を使えるようにする/ 穴埋め問題
3	分詞の基本を理解できる	現在分詞・過去分詞を使った後置修飾を学習/ 長文読解
4	分詞構文を理解できる	分詞構文の構造を学び自分で文章を作ってみる/ 穴埋め問題
5	2級・準1級の熟語を覚える ①	熟語の練習問題に挑戦してみる/ 長文読解
6	2級・準1級の熟語を覚える ②	熟語の穴埋め問題に挑戦する/ 長文読解
7	作文の書き方を理解できる	作文の書き方を学習した後、過去問題集からトピックを選び実践練習
8	リスニング問題の注意点等を理解できる ①	友人との会話・ビジネス・接客等の場面での受け答え練習/ 長文読解
9	リスニング問題の注意点等を理解できる ②	電話・説明文・アナウンスで使われるフレーズ、表現を学ぶ/ 長文読解
10	熟語の復習テスト	熟語の穴埋めテストをして期末試験に備える/ 長文読解
11	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
12	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
13	テストの対策	熟語・作文・穴埋め・リスニングの復習をする
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検準1級過去6回全問題集（旺文社）・英検2級集中ゼミ（旺文社）
参考文献・資料等	英検2級過去6回全問題集/ 高校新演習 英文法・語法/ 英語標準問題1100
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	英語資格対策Ⅱ		( NKT13G )
講義名 (コード)	英語資格対策ⅡB		( NKT13GB )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検3級以上に合格する。
全体の内容と概要	3級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語601~650 3級の過去問題に挑戦する	自分の現在の實力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651~700 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	語彙を増やすために派生語・接尾語を覚える。
3	単語701~750 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	よく出る熟語・フレーズを覚える
4	単語751~800 比較級が理解できるようになる	比較級を理解し、関連問題を解く。
5	単語800~850 最上級が理解できるようになる	最上級を学び、関連問題を解く。
6	単語851~900 / 現在完了形が理解できるようになる	現在完了を理解し、関連問題を解く。
7	単語901~950 3級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
8	単語951~1000 / 前置詞・接続詞が理解できるようになる	紛らわしい前置詞・接続詞を的確に使えるようにする。
9	単語1001~1050 / listening・作文が書けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
10	単語1051~1100 / listening・作文が書けるようになる	listeningと作文の過去問題をやってみる。
11	単語1101~1150 / 語彙・熟語・フレーズが理解できるようになる	語彙や熟語が自分の物となっているか復習テストを受ける。
12	単語1151~1200 3級の過去問題に挑戦する	listening から筆記までの過去問題を時間内で解いてみる。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検3級過去6回全問題集、英検3級でる順パス単
参考文献・資料等	Evergreen、英検3級総合対策教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	芸術表現Ⅱ		( NCR13J )
講義名 (コード)	芸術表現Ⅱ		( NCR13JX )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	身近な素材やテーマから、自分なりに発想し工夫して「生活の中の芸術」を生み出す力を育む。身の回りにある「芸術」に気が付き、生活を豊かにする感性を身につける。
全体の内容と概要	ワークショップ型の作品づくり。グループワークもあり。自分の作品を発表したり、自分以外の作品を鑑賞し、感想を述べるなど、クリエイティブなコミュニケーションを展開する。
授業時間外の学修	あり (状況による)
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	絵や工作が得意か否か、上手いか否かにかかわらず、工夫して前向きに表現しようとする姿勢を重視する。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	豊富な色や形のタイルを選び、自分好みの作品を作ることができる。	タイルクラフトでオリジナルコースターづくり
2	キャラクターの役割やマーケティングについても考えることができる。	身近な商品のオリジナルキャラクターを考えよう①
3	キャラクターの役割やマーケティングについても考えることができる。	身近な商品のオリジナルキャラクターを考えよう②
4	日本古来の風物詩に触れて、自由な塗り絵を楽しむことができる。	狐のお面に色をつけよう
5	身近にある「フォント」を観察し、変化させることができる。	オリジナルフォントづくり①
6	身近にある「フォント」を観察し、変化させることができる。	オリジナルフォントづくり②
7	削って癒される不思議な体験ができる。	スクラッチアート体験
8	素材を楽しく組み合わせ、気持ちを伝えるデザインを考えることができる。	クリスマスカードづくり
9	自分の成長や内面の変化に気がつくことができる。	今、一番好きなものをデッサンする①
10	自分の成長や内面の変化に気がつくことができる。	今、一番好きなものをデッサンする②
11	たった1本の線が組み合わせたり、想像もつかない作品になる体験ができる。	1本の線から生まれるアート体験
12	テーマを意識して写真を撮ることで、表現の幅を広げることができる。	街に出て写真を撮ろう。～冬の風景～
13	1年間のまとめとして、今まで体験した手法を用いて、記念に残る作品を作ることができる。	オリジナル時計づくり①
14	1年間のまとめとして、今まで体験した手法を用いて、記念に残る作品を作ることができる。	オリジナル時計づくり②
15	1年間のまとめとして、今まで体験した手法を用いて、記念に残る作品を作ることができる。	オリジナル時計づくり③

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書		なし
参考文献・資料等		なし
備考		なし

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	中国語初級Ⅱ	( NCR22P )	
講義名 (コード)	中国語初級Ⅱ	( NCR22PX )	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	就職時に役立つようにHSK2級の習得を目指し、中国語の基本的な能力を身につける
全体的内容と概要	教科書の内容に沿って行い、練習問題を多く解く
授業時間外の学修	宿題を課す
履修上の注意事項等	なし

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	UNIT3の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「時刻や時間の言い方について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題を学ぶ
2	UNIT4の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	年月日・3けた以上の数字について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
3	UNIT5の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「数量の表見、量詞の使い方について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
4	UNIT6の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「数量の表見、量詞の使い方について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
5	UNIT7の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「中国語の前置詞、介詞について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
6	UNIT8の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	中国語の前置詞、介詞について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
7	UNIT9の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「中国語の助動詞、能願動詞について(1)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
8	UNIT10の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	中国語の助動詞、能願動詞について(2)」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
9	UNIT11の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「動詞述語文の用法について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題を学ぶ
10	UNIT12の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「副詞の使い方について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
11	UNIT13の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	疑問代詞を使った疑問文について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
12	UNIT14の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「『了』の用法について」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
13	UNIT15の本文、新出語句等を理解し、練習問題を解くことができる	「進行のアスペクトについて」単語、文法の確認、課題文の翻訳、練習問題で学ぶ
14	まとめと解説	テスト対策
15	まとめと解説	テスト対策

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	HSK公認テキスト2級 改訂版
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	通訳入門Ⅱ		( NCR13D )
講義名 (コード)	通訳入門Ⅱ		( NCR13DX )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通訳の基礎を学ぶ。通訳演習を通して、英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる。
全体の内容と概要	リテンション、サマライズ、ノートテイキングなど、通訳に必要なスキルを学ぶ。例文を何度も発話することで「使える」表現として定着させ、クイックレスポンスができるよう訓練する。
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティングなど、自習できるものは普段から実践する。 既習内容を復習し、定着させる。
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	数字を正確に訳せる	桁数の多い数字の読み方を確認し、正確に訳すトレーニングを行う。 英語の数字の聞き取りを練習する。
2	自然な日本語で訳せる (E→J Delivery)	自然な日本語になるよう意識して訳す。
3	be from~, start ~ing, be good at ~ の表現が通訳できるようになる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
4	before~, after~を正確に使う、訳せる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
5	There is/are~, have~を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
6	like to~, would like to~, would like you to~の表現を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
7	so, because, but, although を自然に訳せる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
8	When, Where, What, Why, Who, Howを使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
9	have been to~, have ever~, have never~を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
10	インタビューをする/受ける (グループワーク)	3人のグループを作り、一人が質問する、もう一人が質問に答える、もう一人が通訳する側になって練習する
11	プレゼンテーション/訳す ができる (ペアワーク)	一人が短いプレゼンテーションを行い、もう一人が通訳する。
12	まとめ・復習 1	1年間で履修した内容のまとめ、実習課題 1
13	まとめ・復習 2	1年間で履修した内容のまとめ、実習課題 2
14	テスト	後期テスト
15	FB	テストフィードバック

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	話すための瞬間英作文トレーニング・音読パッセージトレーニング
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡ		( NKT14E )
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡA		( NKT14EA )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネスで使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。又日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体的内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものとは比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものとは比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	JLPT形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	JLPT形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	×の前夜で死に、言い換えている言葉を見つけることができる。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅱ		( NKT14G )
講義名 (コード)	日本語資格対策ⅡA		( NKT14GA )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めるおとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる1	文法（～か、にもほどがある、ならまだしも、以前）、語彙（漢字読み第7, 8, 9, 10回）
2	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる2	文法（～べくして、が だけに）、チェック、語彙（文脈規定第1, 2, 7, 8回）
3	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる3	文法（～といわず といわず、たら たで、にたえない、ようものなら）、語彙（文脈規定第9, 10, 言い換え類義第7, 8回）
4	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる4	文法（～ならいざしらず、ないものか、に越したことはない）、チェック、語彙（文脈規定第11, 12回、言い換え類義第9, 10回）
5	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる5	文法（～とはいえ、といったところだ、に ない、にかこつけて）、チェック、まとめ問題
6	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる1	文法（～ところを、の至り、をもって、こととて、に堪えません）、語彙（文脈規定第13, 14回、用法第1回）
7	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる2	文法（～たる、限りです）、チェック、まとめ問題、語彙（文脈規定第15, 16回、用法第2回）
8	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる1	文法（～じゃあるまいし、んばかり、たらそれまでだ、ものを）、語彙（用法第3, 4回）
9	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる2	文法（～ときたら、たところで、おうが、ろうが まいが）、語彙（用法第5, 6回）
10	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる3	文法（～なら で、にすれば、までのことだ）、チェック、語彙（用法第7, 8回）
11	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる1	文法（～といったらない、ろうにも ない、まくって）、語彙（用法第9, 10回）
12	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる2	文法（～にしたところで、てみせます）、チェック、まとめ問題、語彙（N1語彙総合問題）
13	小説などを読んで登場人物やその関係を理解することができる	文法（～つ つ、ともなく、べく、てからというもの）語彙（N1総合問題）
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY! 日本語能力試験N1, ドリル&ドリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	